

## 平成30年度 教育委員会点検評価委員会 議事録

### 1 開会及び閉会の日時

平成30年9月13日（木）午後1時30分～午後4時

### 2 場所

井波庁舎 301会議室

### 3 点検評価委員

- |     |       |     |       |
|-----|-------|-----|-------|
| ・委員 | 土田 信久 | ・委員 | 武部 範代 |
| ・委員 | 宮川 義文 | ・委員 | 島中 昌代 |

### 4 説明出席者

- |              |       |               |        |
|--------------|-------|---------------|--------|
| ・教育長         | 高田 勇  | ・教育委員会教育部長    | 酒井 啓行  |
| ・教育部次長教育総務課長 | 村上 紀道 | ・教育部参事こども課長   | 武田 秀隆  |
| ・生涯学習スポーツ課長  | 桜野 高弘 | ・文化・世界遺産課課長補佐 | 山本 悦司  |
| ・教育総務課主幹     | 堀 桂子  | ・教育総務課主事      | 山崎 香保里 |

### 5 傍聴者

なし

### 6 会議の要旨

午後1時30分、教育部長が開会を宣し、議事に入る。

#### 1 開会挨拶（高田教育長）

本日はお忙しいなか、4名の委員の皆さんにはご出席いただきありがとうございます。

点検評価委員会は地方教育行政法に基づいて、市教育委員会の事業について事務局が自己評価した結果を委員の皆さんに判断していただくために年1回開催しています。評価についてのご意見や、事業内容についてのご質問をいただければありがたいと思います。

本日皆さんからいただいたご意見を、来年度の報告書に反映させていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

#### 2 出席者紹介

#### 3 報告書の説明と質疑・意見

#### 基本目標「1 豊かな心を育む学校教育の充実」

#### 基本施策（1）確かな学力の育成 関係

○点検評価委員 「富山型学習向上プログラム」とは何か。重点施策にも「富山型学力向上総合支援事業」と記載があるが同じものか。

○教育長 「富山型学習向上プログラム」とは、全国学力学習状況調査が大きく取り上げられるようになってから開始したものと認識している。秋田県や福井県は、学力向上のために先進的な取組をしている。それぞれ独自の授業の仕方や家庭学習の与え方を研究し、全県下の小中学校で浸透させている。富山県でも「富山型学習向上プログラム」を策定している。南砺市

では県教育委員会から補助金の交付を受け、市内の小学校と中学校の1校ずつを2年間の研究校に指定し、秋田県や福井県の学力向上に顕著な功績のある講師による講演を行う等、学力向上を目指すことを狙いとしている。2年の研究指定期間が終わったら別の小中学校が研究指定校となる。市内の全小中学校は既に一巡している。

### **基本施策 (2) 自他を尊重し、他を思いやる心の育成 関係**

○点検評価委員 学校図書館司書助手の配置が17人というのは、市内の各小中学校に1名ずつ配置されているのか。

○事務局 全小中学校に学校図書館司書助手を配置しているが、2校兼務している職員もいるため、17人は延べ人数となる。勤務形態は各学校に週2、3日で、フルタイムではなく半日程度の勤務である。

○点検評価委員 1人あたりの貸出冊数を増やすためには、学校図書館司書助手の力はとても大きい。児童一人当たりの月平均貸出冊数の現状が5冊と記載しているが、低学年、中学年、高学年では貸出冊数に大きな差がある。低学年は読む時間がかからない本を、高学年は小説などの読む時間がかかる本を借りている。小学生で読書の楽しさを感じることができると、中学生、大人になっても読書を続けていくと思う。学校図書館司書助手は学校図書館を明るくしたり、楽しくしたり、配置の方法を考えてくれたり図書委員とタイアップして、子どもたちが来たくするような学校図書館の環境をつくることができる。学校図書館司書助手が学校図書館に来てもらえるような仕掛けづくりをすることがきっかけとなって、貸出冊数が増えることもある。また、学校図書を購入する際に子どもたちが喜んでくれる本、学習に必要な本を選定するとき、学校図書に精通する学校図書館司書助手がおすすめの本を示し、担当教諭に的確なアドバイスをすることができる。学校図書について教諭の知識だけでは足りない部分を学校図書館司書助手が補っているため、学校図書館司書助手が充実すれば学校図書の貸出冊数はさらに増えるのではないかと思う。

学校図書館司書助手を対象とした研修は実施しているのか。

○事務局 今年度から市センター主催で学校図書館司書助手対象の研修会を実施している。

○点検評価委員 子どもたちに人気の学校図書館を実際に見たり、学校図書館の運営方法について職員同士で情報共有したりする機会があると良いと思う。

○事務局 実際に南砺市内の小中学校に勤務している学校図書館司書

助手で、他市の研修会に講師として招聘される職員もいる。その職員の勤務している学校図書館を見ると子どもたちが喜ぶ環境づくりを研究しているのが分かる。

○点検評価委員 子どもたちが読書を好きになるために、今後も学校図書館司書助手の研修会など開催していただきたい。

○点検評価委員 「自他を尊重し、他を思いやる心の育成」が基本施策であれば、指標に図書の出借冊数ではなく、道徳心や親切、挨拶運動等を入れてはどうか。

○事務局 平成31年度までは指標は変更せず、32年度に改定する際に指標の内容も検討したい。

○点検評価委員 外国人の児童生徒が増えていると聞いているが、学校生活に支障なく馴染むことができているのか。

○事務局 日本人と同様に馴染むことは難しいと思われる。子どもにとって先生や同級生と会話ができないことは障害となるため、市と県の事業で外国語支援員を派遣し、半日程度該当の子どもに付き添ってもらっている。また、授業中に通訳をしてもらう以外にも、保護者が日本語を話せない場合は、学校と保護者の間の通訳、お便りの大事な箇所を通訳してもらっている。

○教育長 市内には週1回だけ配置している外国語支援員もいる。学校や保護者の要望に十分応えることができないのは残念である。

○事務局 通訳ができる人材が少ないため、南砺市に勤務している支援員は他の市町村でも勤務をしている。そうすると市内での勤務が少なくなる。

### 基本施策 (3) 健やかな体の育成 関係

○点検評価委員 「スポーツエキスパート派遣事業」について、競技に精通した指導者に指導いただくことができ、子どもたちにとっては非常に良いと思う。顧問になる教員は専門外のスポーツを教えることもあるので、非常に有効な事業だと思う。吹奏楽部や美術部等の文化部においても、経験の無い教員が顧問となって指導することもあり、外部講師の謝礼を部活動費から捻出している現状もある。スポーツエキスパートのような指導者を派遣することができないか。あるいは、市から講師を派遣するための助成金を交付することができないか。そうすれば教員の負担も減り、指導者による専門的な指導や生徒の技術向上を目指すこともできる。是非検討をお願いしたい。

○事務局 今年度から国と県の事業で部活動指導員を市内中学校5校に派遣している。ある中学校では、美術部に部活動指導員を

配置している。スポーツエキスパートのような指導者で吹奏楽部に1年間を通して指導できる指導者はいない。吹奏楽部がある中学校が市内にも多くあるので、現在いる指導者でどういった配置ができるのか、現状を調べて確認したい。

#### **基本施策 (4) 学校教育環境の整備 関係**

○点検評価委員 指標から市内の小中学校のトイレの洋式化に取り組んでいるのは分かる。今年の夏は猛暑日が続いたが、各小中学校のエアコンの設置状況はどのようになっているのか。

○事務局 平中学校、利賀中学校以外の中学校6校の普通教室には平成26年に既に設置している。平中学校、利賀中学校の普通教室には来年度に設置を予定している。小学校については、福光中部小学校と井波小学校は大規模改修に合わせて設置をしている。他の小学校7校の普通教室には来年度設置したいと考えている。理科室等の特別教室については予算の範囲内で設置をしたいと考えている。

○点検評価委員 ICTの活用するためのICT支援員はどこの学校に何人配置され、どういった内容の業務をしているのか。

○事務局 ICT支援員は学校には配置されていない。民間の情報関係の会社から必要があるときに学校に行ってもらい、パソコンと電子黒板の接続、遠隔協働学習の準備等の支援や補助をしていただいている。また、機械に不具合があったときも確認や修理に行ってもらっている。各学校でICTの活用が習慣化し、徐々にICT支援員の派遣が少なくなしてほしいと考えている。

○点検評価委員 小規模校の子どもたちにとって、遠隔協働学習は多様な考えに触れることができるとても大事だと思う。同時に、考えが深まったり、新しい知識が得られたりする。このように、ICTの活用は1つのツールとして大事であり、意味があると思うが、教員の多忙化に拍車がかかるのは間違いない。教員は日々の授業のために、また、子どもたちのためにICTの活用に取り組んでいるが、日常化をすることはとても難しいと思う。ICT機器の準備やカメラの操作を教員が1人で行うのは難しいと思うので、ICT支援員に気軽に依頼できる体制があると学校も助かると思う。

○点検評価委員 子どもたちのインターネットの利用について、全ての保護者が家庭でのインターネットの利用に注意していると思う。これまでマナーやルール、ネットに関わる犯罪が注目をされてきたが、現在ではネット依存症も問題となっていて、学校生活、家庭生活にも悪影響を及ぼすことが想定される。市で

行ったスマートフォン等の利用に関する意識アンケートは直近で約2年前だったと思うが、今同じアンケートをしたら結果が大きく変わっているかもしれない。市教育委員会でも各学校と連携しながら子どもたちのネット利用について見守っていただきたい。

○事務 局 各学校ではネットトラブル防止、ネット依存に対して真剣に対応してもらっている。教育委員会として、学校と家庭の両方に働きかけていくことが大事だと考えている。

○点検評価委員 図書館図書整備事業は29年度だけで小学校は4,722千円、中学校は4,223千円を支出しているのか。

○事務 局 記載にあるのは29年度だけの事業費で、毎年図書購入費として小学校は450万円、中学校は400万円を市費で予算措置をしている。また、長年にわたって毎年50万円の寄付をいただいております、小学校、中学校にそれぞれ図書購入費として25万円を配当している。

### **基本目標「2 生きがいある暮らしのための生涯学習の推進」**

#### **基本施策 (1)生涯学習活動の推進 関係**

○点検評価委員 小中学校の学校図書館の利用は少ないようだが、一般の年間図書貸出冊数は多い。小中学生も学校図書館を利用し、貸出冊数が増えてほしい。

○事務 局 市立図書館は大人だけでなく、小学生から高校生も利用している。市立図書館は幅広い年代の人に利用されている。

### **基本目標「3 健やかな心と体を育む生涯スポーツの推進」**

#### **基本施策 (1)各種スポーツ大会・教室の開催 関係**

○点検評価委員 指標の「総合型地域スポーツクラブ加入率」の目標値が報告書では20.0%であるが、教育基本振興計画では19.5%となっている。

○事務 局 平成29年3月に改定されたスポーツ振興基本計画、南砺市総合計画後期基本計画に合わせて、指標の目標値を19.5%から20.0%に変更している。

○教育 長 読み手に分かりやすくなるように「総合計画に基づいて」等、修飾語を追加すべきである。

○事務 局 総合計画の後に「後期計画(改定)」も記載する必要がある。

#### **基本施策 (3)社会体育施設の整備・充実 関係**

○点検評価委員 体育施設の改修や修繕が実施されている。市では公共施設を再編、整備する計画があるので、修繕しても施設は将来使えなくなるのではないか。

○事務 局 再編の対象になっている施設は譲渡や解体をする方向で進めているが、計画的に修繕、改修を行っている施設は再編の

対象にはなっていない。再編の対象になっていても、緊急の修繕が必要な場合は補正予算での修繕で対応している。

○点検評価委員 桜ヶ池クライミングセンターも現在売り出されているが、来年もクライミングの大会は南砺市で開催される予定だと聞いている。

○事務局 来年のクライミングの大会は南砺市での開催を予定している。今年は猛暑だったため、来年は春か秋に開催する予定としている。来年度以降は市外の施設で開催する予定である。

#### **基本目標「4 魅力ある芸術文化活動の振興」**

##### **基本施策 (1)「文化芸術振興プラン（基本計画）」 関係**

○点検評価委員 「獅子舞・行事調査」の進捗状況は。

○事務局 28年度に1回目の調査は終了している。市内358団体にアンケートを送信して回答いただいた。獅子舞がある団体131団体のうち、102団体が現在活動をしている。今年8月8日、城端庁舎3階で現在活動をしている団体を対象に情報交換会を開催したところ、35地区78名の参加があった。各地区の問題点、現状における悩み、今後の運営について、市に要請している内容等を議論した。そして、来年開催の木彫刻キャンプで獅子舞競演会を行いたいと提案があり、各地域の団体同士の繋がりはないが、技術向上のためにも開催したいという声が上がった。

##### **基本施策 (2)芸術文化活動への支援 関係**

○点検評価委員 指標にある「アートで遊ぼうの子ども参加者数」の目標値は100人であるが、定員が60人で目標値に届かないため、開催場所や回数を増やしていくことを検討しているのか。

○事務局 「アートで遊ぼう」は、人気のため毎年募集を開始後すぐに募集定員に達する。以前から目標値を達成できるように回数を増やせないかと考えていたが、夏休み中の事業のため、バスや講師、会場の手配が十分に整わない。大型バスと市のマイクロバスで定員に達してしまう。それ以外の参加希望者は自家用車で来てもらうなど1回の開催で目一杯参加してもらっている。講師には、開催する計画と当日の運営や指導、展示等をしてもらい、大きな負担をかけている。

○点検評価委員 井波美術協会でも類似した事業で、子どもたちが講師の指導のもと石に絵を描く事業を実施していて、20名の子どもたちが参加している。「アートで遊ぼう」と組み合わせる実施できないか。参加人数が増えるため、達成率が高くなる。

○事務局 石を使ったものと和紙を使ったもので、回数を分けて開催しても良いと思う。

## 基本目標「5 文化財の保存・活用と伝統文化の継承」

### 基本施策 (1)世界遺産マスタープランの推進 関係

- 点検評価委員 コガヤ年間生産量の目標値15,000束は、年間で15,000束あれば市の合掌造りに使用する量が賄えるのか。
- 事務局 世界遺産マスタープランには、年間で31,000束あれば市内の7棟から8棟の合掌造りは賄うことができると記載している。コガヤは植えてから5年経過しなければ刈り取ることができず、28年度から植えているものは順次刈り取りの時期が来ると思われる。
- 点検評価委員 計画的に栽培をして31,000束を確保できるというとか。
- 事務局 南砺市の合掌造りは南砺市産のコガヤで葺替えたいと考えているが、不足する分については他の地域から購入している。また、市の所有物件に関してはコガヤだけでなくオガヤで葺替えも行っている。

### 基本施策 (3)文化・歴史遺産の保存と継承 関係

- 点検評価委員 指標の「埋蔵文化財センター入館者数」が当初の目標値が5,000人だったが、28年度に2,000人に下方修正されたのはなぜか。
- 事務局 実際、目標値として5,000人は大きすぎた。現在の入館者数を考慮すると現実的に目指せる目標値が2,000人になった。井波町時代の歴史民俗資料館は当初は多くの方が来場したが、徐々に減少していった。
- 点検評価委員 埋蔵文化財センターで実施している歴史体験教室は具体的にどのような体験ができるのか。教育振興基本計画には「親子体験学習を行えるように整備する」と記載もある。
- 事務局 歴史体験教室では、勾玉づくり、ガラス玉づくり、火おこし、縄文土器パズルや組みひもを体験することができる。埋蔵文化財センターは27年度に改修し、1階に体験教室を行うスペースもできた。学校の帰りに寄る子どもたちもいて、地域の歴史に触れる機会が増えたと思う。
- 点検評価委員 私自身、埋蔵文化財センターで歴史体験ができることを全然知らなかった。体験教室はどれくらいの人数で開催できるのか。
- 事務局 勾玉づくりは、10人程度から開催することができると思う。菖蒲まつりのときは来館者が多く、体験教室も満員になるが、普段は電話等で随時受付している。
- 点検評価委員 歴史体験を親子でできるのは非常に良いと思う。積極的に市民に周知して、入館者数が増えてほしいと思う。

- 点検評価委員 城端丸山監的壕は何の構築物か。
- 事務 局 昭和10年代に射撃の演習をしていたときに着弾効果を観測するための構築物である。
- 事務 局 桜ヶ池と立野ヶ原に1か所ずつあり、平成28年度には立野ヶ原にある目玉監的壕を修理している。内部の天井には昔の新聞が貼ってあり、歴史を感じられる。
- 点検評価委員 中に入ることはできるのか。
- 事務 局 城端の丸山監的壕は立入禁止であるが、立野ヶ原の監的壕は自由に入ることができる。
- 事務 局 近くに案内看板は設置しているのか。
- 事務 局 文化財の看板は隣に設置しているが、公道に道路案内表示の看板は設置していない。
- 教育 長 城端丸山監的壕は南砺市に合併して初めての指定文化財である。
- 事務 局 戦争遺産が文化財として登録されるのは全国的にも珍しい。

### **基本目標「6 子供が健やかに育つ子育て環境の充実」**

#### **基本施策 (1) 幼児教育・保育サービスの充実及び支援 関係**

- 点検評価委員 南砺市は子育て支援が充実しているため、多くの施策の評価に「A」を付けてほしいと思う。「就労しながら無理なく子育てできる」のは保護者の職場が子育てしやすい勤務体系に理解があること、また、子どもが病気になったとき施設に預けることができるかどうかである。保護者のニーズが高い病児保育も検討してほしい。現在市内で実施している病後児保育は何人の子どもを受け入れることができるのか。
- 事務 局 市内の病後児保育を実施している施設は5施設で、各施設2人の病後児を預かることができる。病後児保育を実施している施設は各地域の大規模園に併設していて、福野地域は大規模園2園のうち1園だけに併設している。看護師が常駐している1施設ではその日に体調が悪くなった体調不良児の預かりも対応している。病児保育については、病院等の所管課である地域包括医療ケア部と協議して、小児科医が配置されている南砺市民病院で開設できないか、話を進めている。早ければ平成31年4月の開設を目指したいが、施設の整備等もあるため31年度中の開設を目指していきたい。
- 点検評価委員 市内の放課後児童クラブでは、6年生まで受け入れを行っているのは保護者にとって大変ありがたいと思う。他市の施設では3年生までしか受け入れず、5,000円程度の費用もかかる。



○事務 局 利用者負担について、市の放課後児童クラブは無料としているが、デメリットもあるため、必ずしも無料が良いとは限らない。しかし、議会でも言われたが、利用料が無料であることを積極的にPRしていきたい。

○点検評価委員 市内では無料が当たり前だと思われるかもしれないが、非常にありがたい制度だと市民にも認識していただく必要もある。

### **基本施策 (2) 児童の居場所づくりの推進 関係**

○点検評価委員 指標にある「地域主体の学童保育実施数（とやまっ子さんさん広場）」は実施箇所が増えず伸び悩んでいるように思われるが、地域主体で居場所づくりができることが各地域にとっても重要だと思う。市で推進している小規模多機能自治に合わせて、地域主体で学童保育を実施しないかという働きかけはしているのか。

○事務 局 小規模多機能自治を推進する上で、地域主体での児童の居場所づくりは非常に大事である。公民館等を中心に地域住民が主体性をもってルールを決めて子どもたちを預かることが事業の趣旨であり、放課後児童クラブに該当しない子どもたちも全般的に預かることができるため、推進していきたいと考えている。今後、各地域への働きかけを行って、各地域から実施できないか相談があったら検討したいと考えている。

○事務 局 自治振興会連合会でも地域主体の学童保育については1度全体説明している。

○点検評価委員 運営の仕方は各地域が考えて良いのか。

○事務 局 地域主体の学童保育は県の事業であり、県から補助金を交付されるため、県の制定している要綱に従う必要がある。

○点検評価委員 現在5か所が実施しているが、見に行くべき地域の学童保育はあるか。

○事務 局 各地域でそれぞれの特徴がある。どの地域も地域の特色を生かしながら子どもたちを預かっているのが、一概にどこの運営方法が良いとは言えないが、井口地域は放課後児童クラブを実施していないため、地域主体で子どもたちを預かる学童保育としての規模は大きい。

### **基本目標「7 子どもへの喜びや生きがいを持てる子育て家庭へ**

#### **基本施策 (1) 幼児教育・保育サービスの充実及び支援 関係**

○点検評価委員 土曜日と日曜日も開所している「子育て交流サロン事業」はどこで実施しているのか。

○事務 局 福野ひまわり保育園に併設している子育て支援センター「たんぼぼ」と福光どんぐり保育園に併設している子育て支

援センター「にこにこ」の2か所で実施している。

- 点検評価委員 子育て支援センターは平日の利用者が非常に減ってきていると聞いた。市内の0歳児の3割から4割、1歳児の7割が保育園に入園するため、平日に利用する親子は2組程度で、夏休みは兄や姉が小学生だと未就園児の子だけ支援センターに連れてくることもできず、特に少ないと聞いた。身体測定等の催しがあるときは15、16人の方が利用するが、入園児童が低年齢化しているのは確かである。また、平日より土日の利用が多く、両親と一緒に子どもを連れて来たり、父親が子供を連れて来たり、祖母が孫を連れて来たりして、たくさん利用があると聞いた。
- 点検評価委員 どの地域の子育て支援センター、サロンを利用することができるのか。
- 事務局 どの地域からでも利用することができる。各地域の支援センターを利用している保護者もいる。また、子育てに関する悩みを話したり相談したりできる職員の勤務に合わせて利用する保護者もいる。
- 点検評価委員 ファミリー・サポート・センターへの依頼、相談依頼の内容について把握はしているのか。
- 事務局 利用が多いのは、児童館や放課後児童クラブ後の利用時間延長である。たとえば放課後児童クラブで6時30分まで預かることができるが、保護者の仕事の関係で7時ごろになるということで30分延長するということとなれば延長対応とするが、7時からさらに7時30分まで延長する場合はファミリー・サポート・センター事業となる。
- 点検評価委員 ファミリー・サポート・センターは児童館に併設されていると考えて良いのか。
- 事務局 ファミリー・サポート・センターは、子育て支援センター「あっぷる」、福光児童館の2か所ある。協力会員は各地域に住んでいるが、児童館や放課後指導クラブの利用時間延長については児童館に勤務する支援員も協力会員となって子どもを預かる時間の延長対応をしている。
- 点検評価委員 実際に協力会員が依頼者の自宅に訪問してサポートする事例はあるのか。
- 事務局 訪問依頼の件数は多くはないが、ニーズはあると聞いている。
- 点検評価委員 「移住定住世帯に係る保育料の無料化」に、保護者の所得制限はあるのか。
- 事務局 今のところ所得制限は設けていない。要件として、南砺で

暮らしません課が実施している定住促進事業の該当になる必要がある。

○点検評価委員 南砺市の人口減少に歯止めをかけるための良い事業ではあるが、市外から来た人に対しての優遇が二重、三重になっているのではないかと。市では移住定住者促進事業に大きい金額の予算措置をしている。

○事務局 「移住定住世帯に係る保育料の無料化」は31年度までの総合戦略事業の1つで、市では人口減少対策として移住定住者を促進しているため理解いただきたい。31年度以降は事業を見直し、効果があるものについては継続していきたいと思っている。

○点検評価委員 保育料無料化は何年間で限度となるのか。

○事務局 3年間で限度として無料とする。南砺で暮らしません課で交付している定住補助金を要件にしている。

○点検評価委員 移住、定住して子どもが生まれたのが3年後だった場合は保育料無料化の対象になるのか。

○事務局 移住、定住してから3年を経過しているため、事業の対象にはならない。

○点検評価委員 自分の子どもに南砺市に残って頑張ってもらう必要がある。市外に転出した自分たちの子どもが金銭的な負担をすることで、地域で見守る仕組みづくりをすることができないかと思う。

○事務局 市では自分の子と一緒に住むこと、近くに住む三世同居についても推奨している。

○点検評価委員 確かに、三世同居を同一敷地内で別棟に居住する方も保育料軽減の対象としていて良いと思う。

#### **基本施策 (4) 次世代の親の育成 関係**

○点検評価委員 「もうすぐパパ講座」は29年度に初めて開催されたのか。

○事務局 総合戦略事業の1つとして28年度から開催している。「もうすぐパパ講座」とは、奥さんが妊娠中の夫婦を対象に保健センターの協力のもと、出産の際の心構えや生まれてからの対応について情報を提供する場である。同時に、育児中のパパにも来ていただき、パパ同士の座談会では先輩のパパからのアドバイス等があり、非常に効果があると思われる。

○点検評価委員 初めての子どもだと、抱っこの仕方やお風呂の入れ方など子どもが産まれたらすぐに取り組まなければいけないことが分からない。母親や祖母に頼ってばかりではなく、イクメンとして責任を持って取り組まなければならないが、子どもが泣いてばかりいるとどうしていいか分からなくなる。父親に

なるための心構え等の指導があれば良い。

- 事務 局 まず始めは妊婦の体験をして奥さんの大変さを知り、子どもが生まれてからのお風呂の入れ方、おむつの交換の仕方等の指導は網羅されていると思っている。30年度も開催しているので、是非見学に来てほしい。

午後4時、議事が終了したので教育部長が閉会を宣した。

平成30年 月 日

南砺市教育委員会

教育長